

# 北九州市立子どもの館・子育てふれあい交流プラザ

## 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月9日(水) 9:30~12:10
- 2 場 所 小倉北区役所(西棟)7階 特別会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 山下智也構成員、山下比呂志構成員、  
玉井構成員、田村構成員、小林構成員  
(事務局) 子ども家庭局総務企画課  
総務企画課長、庶務係長、職員
- 4 会議内容
  - 当日の配布資料・議事次第等について、事務局から説明。
  - 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局から説明。
  - 事務局の推薦により、座長を選出
  - 応募団体(NPO法人子ども未来ネットワーク北九州)から提案内容についてのプレゼンテーション及び質疑応答を実施。
    - (構成員) 法人の内部留保を活用して、子育てふれあい交流プラザに新しい遊具の導入を検討するとの提案があったが、以前、子どもの館で遊具を導入する際に活用した国の補助金を申請できないのか。
    - (構成員) 申請可能な国の補助金等がないか確認をしてほしい。
    - (構成員) 補助金については、商工会議所や北九州市へ確認を行う等、十分に検討すべき。NPO法人は経営基盤が脆弱である場合が多いため、内部留保を活用した結果として、法人運営に影響がでないか心配である。
    - (構成員) 様々な補助金があるので、色々と調べてほしい。
    - (応募団体) 検討させていただく。
    - (構成員) 提案資料の中に入場者数の数値目標があった。北九州市でも少子化が進行している中、数値目標は年々増加しているが、リピーターを増やすような取組を行っているのか。
    - (応募団体) 今回の指定管理料の上限額については、今後5年間の人件費等の高騰分を見越した金額で算定していただいた。そのため、今回の提案では、それを見込んで積算しているので、支出が増えるということであり、支出が増えるということは、

- すなわち、施設の利用料収入を増やす必要がある。正直なところ、毎年1万人も利用者数を増加させるという目標は、厳しい目標であるが、頑張りたいと考えている。
- (構成員) 数値目標は達成してほしいと思う一方で、利用者側としては、施設が程よく空いていたほうが利用しやすいという側面もある。以前、平日であれば利用者が少ないだろうと思い、子どもを連れて施設を訪れたところ、イベントや保育所等の遠足と重なって、混雑しており、利用しにくいということがあった。利用者数を増やすことは大切だが、HP等を活用して、イベントの開催状況や混雑状況の公表をしてはどうか。コロナ禍では、事前予約制で安心して施設を利用することができた。収益との関係もあり、難しいかもしれないが、利用者の目線に立った工夫も検討してほしい。
- (応募団体) 土日祝、午前、午後と利用者の多い時間帯については、偏りがあるため、例えば、利用者の少ない時間帯にイベントを開催するなど、利用者の平準化に向けた取組は行っている。HPやSNSを活用したイベント告知も行っているため、今後は、混雑状況も併せて広報していきたい。
- (構成員) 提案書の中に新規事業として「障害児の育ちに係る支援」との項目があり、施設利用のルールを見直すとのことだが、大変重要な取組だと思う。新規事業の開始に至った経緯や現在の検討状況について教えてほしい。
- (応募団体) 子どもの館では、現在、年齢制限を設けたコーナーが複数あるが、障害のあるお子様と一緒に来館された保護者の方から、年齢制限について、柔軟な運用をしてほしいとの意見があった。可能な限り柔軟な対応をしたいと考えているが、小さな子どもと大きな子どもと一緒に遊ぶという状況になると、体の大きさの違いによるケガの可能性等、管理運営方法について検討すべき課題がある。市とも連絡を取りながら、前向きに考えていきたい。
- (構成員) 大切な取組だと考える。インクルーシブな形で場を作っていくのか、それとも、ゾーニングでやっていくのか等、様々な工夫で課題をクリアしていただきたい。
- (構成員) 提案書の「職員の資質・能力向上を図る取り組みについて」の項目に関して、「接遇・接客」、「マナーアップ」、「人権」、「子育て支援」等の項目で研修を行うことは大切だが、こどもの発達やこどもの育ち等の視点も大切である。スタッフとして、円滑な施設運営に努めるとともに、インクルーシブな施設利用の推進について説明できる職員の配置を進めることによって、利用者の理解も進むと考える。現時点で、こどもの発達やこどもの育ち等の視点に立った研修を取り入れているのか。

- (応募団体) 子ども一時預かり室では、障害のあるお子様も利用されるため、実際に対応する保育士だけでなく、その他の職員も含めた対応研修を個別に実施している。
- (構成員) そのような研修を手厚く実施することで、先ほどの新規提案事業もうまくいくのではないかと感じた。
- (応募団体) 検討させていただく。

- 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換・総評発表を行った。

- (構成員) 内部留保を活用した提案を聞いて、感心した。
- (構成員) 利用者に対して、施設の混雑状況について周知できる仕組みづくりに取り組んでほしい。
- (構成員) 「こどもまんなか」をスローガンに掲げて、利用者満足度向上のために、大型滑り台の設置を検討している点等について、好感が持てた。また、高齢者の雇用について、十分に行われており、限られた財政状況の中でも頑張っている印象であった。
- (構成員) 説明していただいた方々の子どもに対する思いを感じられる提案であった。記念事業を大切にしているところも好感が持てたので、今後も運営を継続してほしいと感じた。
- (構成員) これまで継続して指定管理業務を行ってきた中で、現状維持ではなく、新規事業を複数提案していることを高評価したい。一方、利用者を増やすための取組を進めることにより、混雑というリスクに対するマネジメントにどのように取り組んでいくのかという課題が出てくる。他の委員からも話があったように、わかりやすい形で利用者へ広報するという手段もあるが、現地職員の適切な対応という手段もあるため、研修等を通じて、スキルアップに努めてほしい。なお、過剰な量の研修を行うことは、職員の負担の増加に繋がるため、有意義な研修を心がけてほしい。

- 意見交換・総評発表を行った後、最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。